

研究内容の説明文

研究課題名	抗体依存性細胞傷害活性に影響を与える薬物の同定
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
研究機関名	京都大学医学部附属病院
研究責任者職氏名	教授・松原 和夫

研究の説明	<p>1 研究の目的・意義</p> <p>がん治療で用いられる抗体医薬の多くは、がん細胞に特異的に結合し、さらに抗体とがん細胞の複合体を血液中の免疫細胞であるナチュラルキラー細胞(NK細胞)等が認識して、がん細胞を傷害します。これが、抗体依存性細胞傷害です。併用する薬物によってはNK細胞に作用して、抗体依存性細胞傷害を増強したり、減弱したりして、抗腫瘍効果に影響を与える可能性が考えられますが、どのような薬物が影響を与えるかは明らかになっていません。本研究では、がん治療中に併用される薬物等について、NK細胞による抗体依存性細胞傷害への影響を検討するとともに、その分子機構を解明することを目的とします。なお、このような免疫細胞の評価にはヒトの血液が必須であることから、本研究では献血頂いた血液の一部を使用させていただきます。</p> <p>2 方法</p> <p>提供頂いた血液よりNK細胞を多く含む末梢血単核球を単離します。標識したがんモデル細胞と抗体医薬と、末梢血単核球を共培養して、がん細胞の細胞毒性を評価します。さらに、各種化合物を添加して、その影響を検討します。また、薬物を添加したときのNK細胞の変化について、遺伝子やタンパク質の発現量を測定することにより調べます。</p> <p>3 予測される研究の成果等</p> <p>本研究成果により、抗体医薬の抗腫瘍効果に影響を与える薬物が同定され、抗腫瘍効果を増強したり、不要な減弱を避けて、抗体医薬による高い抗腫瘍効果を得られることが期待されます。また、抗体医薬の効果を増強する新しい薬の開発にも繋がります。</p> <p>4 血液の廃棄と保管</p> <p>測定を完了した検体は、医療用廃棄物として適切に廃棄します。</p>
-------	---

受付番号	28J0015
------	---------

本研究に関する問い合わせ先

所属	京都大学医学部附属病院薬剤部
担当者	米澤 淳
電話	075-751-3586
Mail	ayone@kuhp.kyoto-u.ac.jp